



Action against Child Exploitation
Annual Report
2012

特定非営利活動法人 ACE
2012 年度 年次報告書



ACE は設立 15 周年を向かえました！ あたたかいご支援、ありがとうございました！

2012年1月、日本の若者を連れてガーナを訪れた様子と
日本でのアクション実施の様子を映画にまとめました。
映画は11月の15周年記念イベントで完成披露しました！



映画『バレンタイン一揆』は2013年1月公開
全国各地で自主上映会開催中。

地域や学校、職場などで上映会を開催してみませんか？
全国47都道府県での開催を目指しています。
ぜひご協力ください。

(自主上映会開催に関するお問い合わせは、
ユニテッドピープル株式会社まで)

TEL : 092-407-9799 www.valentinei.net



ごあいさつ

「一歩前進」

日頃からACEの活動にご支援、ご協力、そして応援いただいているみなさま、ありがとうございます。そして、この年次報告書で初めてACEを知ってくださったみなさま、はじめまして。

2012年、ACEは設立15周年を迎えました。このような節目に思い出すのは、「児童労働に反対するグローバルマーチ」という世界的ムーブメントを日本で行うために「そうだ、団体を立ち上げよう」と思いつき、一晩寝ないでACE設立趣意書を書きあげた、1997年のあの晩のことです。

当時、私は22歳。児童労働の問題をなんとかしたいという想いはあるものの、自分には今、そしてこれから何が出来るのかに悩み、自分への不信、不安、不満だらけでした。今も「こんな自分が代表で良いのだろうか?」と悩むことはありますが、ACEの活動をやめたいと思ったことは一度もありません。

なぜなら、私にとっての児童労働を解決するための答え=ACEの

活動そのものだからです。現在策定中の中期計画には、ACEが思い描く社会やビジネスの在り方が盛り込まれています。これらが実現出来れば、児童労働は解決できると、今は自信を持って言えます。年次報告書は、そんなACEの目指す児童労働のない未来へ向けた「一歩前進」をお伝えするものです。これを読んで下さるみなさまと共に、次年度の年次報告書に書けるような「成果」を生み出せたら、幸いです。

ACE代表 岩附 由香



「初心を新たに、次のステップへ」

いつもACEの活動にご支援をいただき、ありがとうございます。

おかげさまで団体設立15周年という節目を迎えることができ、これまでご支援いただいたすべてのみなさまに心より御礼申し上げます。

2012年はACEにとって新しいチャレンジと変化の年でした。ひとつは「映画製作」というチャレンジ。関係者のみなさまと一緒に「関心のない人たちにいかに身近に感じてもらえるようにするか」を徹底的に考え、作り上げました。2013年3月末までに21の都道府県で40件を超える上映会が開催され、韓国での上映も決まるなど、共感の輪がじわじわと広がっているのを感じます。映画に映し出されている3人の女の子の姿は、15年前に小さな一歩を踏み出したわたしたちともそのまま重なり、初心を思い起こすとともに、私たち自身もチャレンジしつづける勇気ももらったように思います。

もうひとつのチャレンジ、変化は、代表の岩附が出産し、組織として初めて半年間の育児休暇を取ったことです。2012年は新しいスタッフも加わり常勤職員8名、非常勤職員1名の事務局体制にな

りました。組織が少しずつ大きくなると同時に、職員のライフステージも変化する中、育児・介護休暇等の制度の充実や残業の削減に取り組みました。特に女性職員が多いACEにとって、結婚、出産後も働きつづけられる環境づくりが課題となっているため、代表自らが実践し、代表の不在中も職員みんなで組織を支えることができたこと、同時に各自のワークライフバランスの充実にも取り組むことができたことは大きな経験となりました。

社会のあり方、個人の価値観がますます問われる中、子どもを社会の中心におき、よりよい循環を生み出していけるよう、支援して下さるみなさまと一緒に、今後も変化を恐れずにチャレンジし続けたいと思います。

事務局長 白木 朋子



報告対象期間：2012年度（2012年1月1日～12月31日）

表紙写真について：2012年6月10日、文京学院大学で開催された児童労働反対世界イベント「ぼくは5歳で兵士になった～元子ども兵士が語る最悪の児童労働～」の参加者によるメッセージ写真。NGO-労働組合国際協働フォーラム、ILO駐日事務所、児童労働ネットワークの三者が共催、664名が参加。（Photo by :Takehisa Goto）

ACEの活動理念 ～ACEが目指す社会と使命～

ACEはすべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、インドとガーナで児童労働の撤廃と、日本で児童労働を予防するための仕組みづくりに取り組んでいます。団体のビジョン、ミッション、バリューに基づき、中期目標をかかげ、年次計画に沿って事業を展開しています。

ビジョン

ACEの目指す社会

子どもの権利が保障され、すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会を目指します。

ミッション

ACEの使命

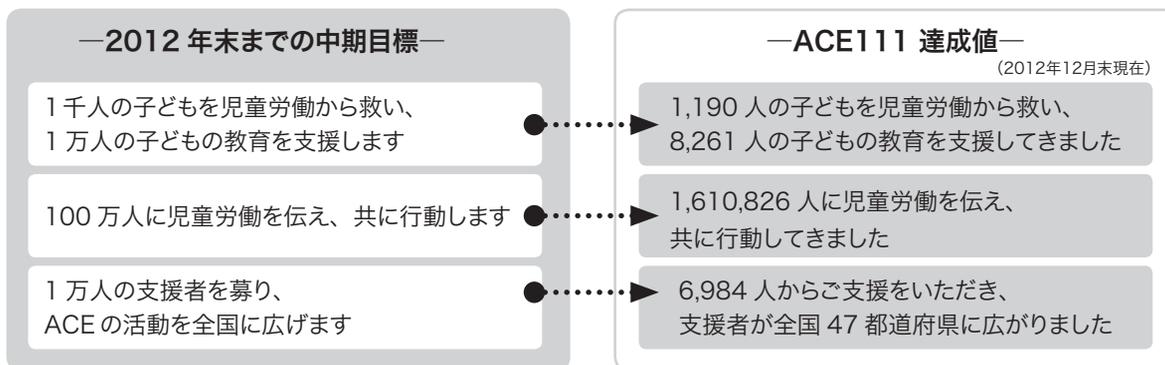
目指す社会実現のために、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組めます。

バリュー

ACEの価値観

1. 子どもの利益を最優先します
2. 市民の力を信じます
3. ネットワークを最大限に活かします
4. フェアで自立した組織を追求します
5. 成長できる場でありつづけます

ACEの中期目標「ACE111(エーストリプルワン)」



中期目標「ACE111」は、伝える活動は大幅に目標を上回り、児童労働から救出した人数も目標達成したものの、教育支援や支援者数は目標を下回る結果になりました。今後、中期計画策定の中で新たな目標を掲げ、実現を目指してまいります。

組織概要

名称 : 特定非営利活動法人ACE
 設立年月 : 1997年12月
 法人格 : 2005年8月 東京都より「NPO法人」認証
 2010年4月 国税庁より「認定NPO法人」認証
 事務所所在地 : 東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F
 代表者 : 岩附 由香
 財産規模(総収入) : 6,954万円(2012年度収入)
 職員数 : 専従9人、非専従1人、インターン5人
 会員数 : 正会員:139人
 賛助会員:個人88人、非営利団体8、企業9
 マンスリーサポーター:275人
 事業内容 : 国際協力事業、啓発事業、政策提言事業、ネットワーク構築・協働事業、広報事業、ソーシャルビジネス事業、震災復興支援事業、周年事業

●役員(2013年度)

理事:岩附 由香 小林 裕 白木 朋子 新谷 大輔 安永 貴夫
 監事:大石 貴子 矢崎 芽生

●評議員(2013年4月現在 敬称略)

※年2回の評議員会にて組織運営や活動へのアドバイスをいただいています。

秋山 訓子 朝日新聞記者
 小城 武彦 職業経営者
 奥津 雷三 会社員
 郷野 晶子 UAゼンセン 国際局 局長
 桜田 高明 連合国際顧問・ILO(国際労働機関)理事
 白土 真由美 前電通総研 サステナビリティ研究部長
 藪田 綾子 株式会社クレアン 代表取締役
 長坂 寿久 元拓殖大学教授
 萩原 なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授
 認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事
 初岡 昌一郎 姫路獨協大学 名誉教授
 堀内 光子 文京学院大学大学院 特別招聘教授
 公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
 渡邊 智恵子 株式会社アバンティ 代表取締役
 NPO法人日本オーガニック・コットン協会 副理事長
 一般社団法人小諸エコピレッジ 代表理事

ACEが取り組む「児童労働」

○児童労働とは

児童労働とは、義務教育を妨げる労働や法律で禁止されている18歳未満の危険で有害な労働のことです。国連「子どもの権利条約」や国際労働機関(ILO)が定めた「最低年齢条約(ILO第138号条約)」と「最悪の形態の児童労働(ILO第182号条約)」などの国際条約に基づき、各国の法律で禁止されています。

○児童労働の判断基準(「子どもの仕事」との区別)

「児童労働(Child Labour)」とは、子どもが働くことすべて指すのではなく、学校に通いながら家の仕事を手伝うなどの「子どもの仕事(Child Work)」と分けて考えています。

児童労働 = Child Labour

- 教育を妨げる労働(特に義務教育が受けられない)
- 健康的な発達を妨げる労働(長時間労働、心身の病気や怪我)
- 有害危険な労働(農薬や有害物質にさらされる作業、高所や深海での危険作業)
- 搾取的な労働(買春・債務労働、子ども兵士など)

※ひとつでも当てはまれば「児童労働」です。



子どもの仕事 = Child Work

- 教育を受けることができる
- 子どもの年齢や成長に見合っている
- 健康的な成長を助け、責任感や技能を身につけることができる仕事

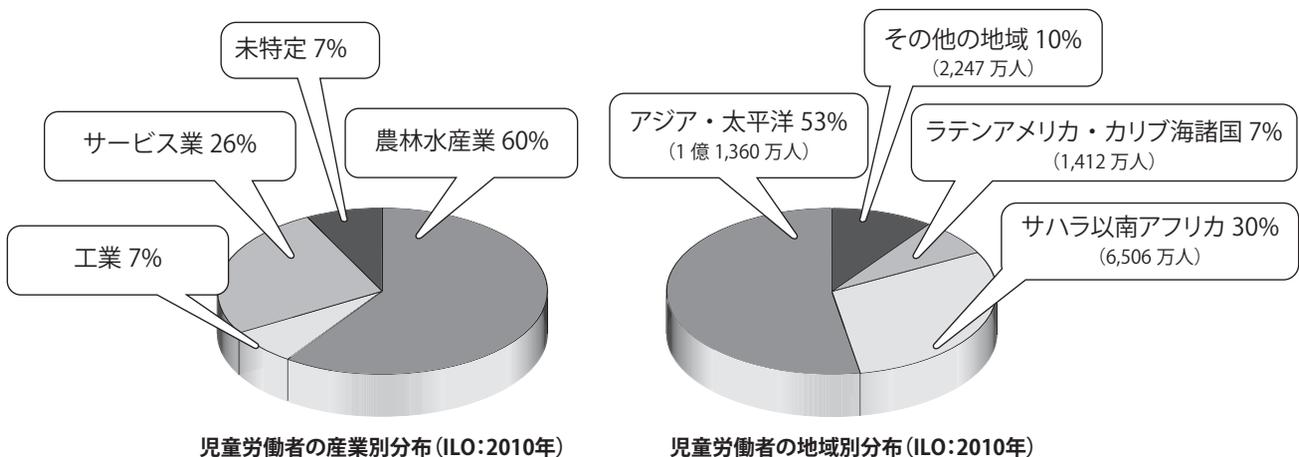


○2億1500万人、7人に1人の子どもたちが児童労働をしています

2010年5月に発表された国際労働機関(ILO)の最新統計によると、世界の子どもの7人に1人にあたる2億1500万人が児童労働をしています。全体的に児童労働は減少傾向にあります。その減少スピードが落ちていることが指摘されています。

○ACEはもっとも児童労働が多い農業分野、アジア、アフリカで活動しています

児童労働がもっとも多い産業は、農林水産業で全体の60%を占めます。地域別では、児童労働全体の53%がアジア・太平洋地域ですが、地域の子どもの人口に占める児童労働者の割合がもっとも高いのはアフリカです。アフリカでは子どもの4人に1人が働き、その人数も増加しています。



○児童労働をなくすために「私たちにできること」

児童労働は、日本に暮らす私たちと決して無関係ではありません。子どもの労働によって作られたカカオやコットンは、チョコレートや衣服となり、私たちの生活の一部となっています。ACEは児童労働を「何とかしたい」という思いではじまり、その活動はみなさんの応援によって成り立っています。ぜひ、みなさんにできることとして、ACEの活動のご支援を、どうぞよろしく願います。

設立 15 周年事業：児童労働をなくす活動を広げるきっかけづくり

映画『バレンタイン一揆』が完成、お披露目の記念イベントを実施

2012年、ACEは設立15周年を迎えました。そんな節目の年に、児童労働をなくすための活動を広げ、より多くの方にACEの活動を応援していただくため、15周年記念事業を実施しました。

団体設立当時、知識も経験もない学生がはじめた活動を多くの方が応援して下さったおかげで、15年間活動を続けてくることができました。これからは次世代の若者を応援する時期に来ていると考え、日本の若者をガーナへ派遣するプログラムを計画しました。

いざ、ガーナを訪問する代表者は決まったものの、多くの人にこの取り組みを伝えたいがどうしたらよいか分からない。そんな悩みを、2010年のNPO法人化5周年事業に協力いただいた並河さんに相談したところ、「短いニュースでは伝えきれない複雑な児童労働の問題を身近に感じてもらうためには映画がいい

んじゃないか」とご提案いただき、ACE史上初となる映画製作というチャレンジが始まりました。

2012年1月から始まった若者のガーナ訪問や日本での取り組みの撮影や、編集を進める一方で、映画を作るため、ACEスタッフは映画製作のための協賛金を集めに奔走しました。その結果、たくさんの方々が温かいご支援で応じてくださいました。映画製作にあたり、撮影、編集、音楽、アニメーションなど、プロフェッショナルのみなさまにボランティアで惜しみないご協力をいただき、観た人に一歩をふみ出す勇気を与え、背中を押してくれる映画に仕上がりました。



ACE設立15周年記念イベント」での映画出演者・制作者によるトークセッション
(左から2人目が映画企画者の並河進さん)

映画『バレンタイン一揆』パンフレットも発売中

● 15周年記念イベントを開催 ～映画の完成披露とACEの15年を振り返る～

完成した映画『バレンタイン一揆』は、11月23日に文京学院大学 仁愛ホールでの「ACE 設立 15周年記念イベント」でお披露目しました。ACEの会員やサポーター、映画にご寄付くださった個人や協賛企業・組織の方々、北海道、東北、四国、九州など地方の支援者の方々を含め、221人の方にご参加いただきました。

参加者からは「等身大で描かれているところがよかった」、「活動をするこの楽しさも難しさもすごくよく描かれている」などの感想が寄せられました。児童労働の現実を知り、自分なりの一歩をふみ出す人たちが増えるよう、映画を通じて共感の輪を全国に広げていきたいと思います。

イベントでは、ACEと連携を進める森永製菓やリー・ジャパンのご担当者に登壇いただき、企業が児童労働に取り組む意義について語っていただきました。地域で活動を広げるACE福岡グループとACEの学生団体PeACE（ピース）の大学生にも、自分たちのフィールドで児童労働を伝え、活動を広げる難しさ楽しさを語っていただきました。企業と市民が共に抱える課題を共有し、何ができるか知恵を出し合っている姿がそこにはありました。



森永製菓の八木さん(中央)とリー・ジャパンの細川さん(右)が登壇



ACE福岡グループの岩城さん(左)とACE学生チームPeACEの渡辺さん(右)

温かいご協賛、ご協力、ありがとうございました！

15周年事業の実施にあたり、181人、37組織から合計805万円のご協賛いただき、個人・団体・法人で一定額以上のご寄付をくださったみなさまのお名前や社名・ロゴなどを映画のエンドロールに掲載させていただきました。ご寄付・協賛金は、映画製作や記念イベントの実施と、映画を全国に広げて支援者を増やす活動や組織の基盤強化にも活用させていただきます。映画の制作には、企画の並河進さん、監督の吉村瞳さんをはじめ、TYO Inc. Camp-KAZ、博宣インターナショナルのみなさまなど、多くの方々にご協力をいただきました。あらためて、心より御礼申し上げます。

今回の映画製作やイベントは、いろいろな人たちを巻き込みながら活動を積み上げてきたACEのスタイルが、ひとつの結晶になったものといえるかもしれません。まだまだ日本では児童労働への理解は低いという難題はありますが、あきらめずに挑み続けるという誓いをあらためて共有できたと思います。映画『バレンタイン一揆』という宝物を最大限に活用し、児童労働のない世界の実現に向けて、これからも取り組んでまいります。



ACEが設立してからの15年を振り返るACE代表、岩附(左)と理事の小林(右)



総務・経理担当 坂口 志保

2012年4月より総務・経理担当としてACEに入りました。映画エンドロールへのお名前掲載にあたり、協賛企業や寄付者のみなさまとのやりとりを担当し、今のところクレームが来ていないのがちょっとした喜びです(笑)。さまざまな企業や団体、たくさんの方々からACEは支えられているのだなと感じました。今後も寄付や会費などの窓口を担当いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 国際協力事業：スマイル・ガーナ プロジェクト

「自分たちの力で村を良くしていこう！」 3年間の支援が終了した村で、活動が住民に引き継がれました

ガーナのカカオ生産地域の3つの村で1年間に79人の子どもが学校に通えるようになりました

チョコレートの原料、カカオ豆。日本が輸入するカカオ豆の約8割はガーナ産です。ガーナでは小規模な家族経営の農家が多く、子どもは労働力としてみなされ、働くことで教育の機会が奪われています。過重な労働や危険もあることから、ACEはガーナのカカオ生産地で子どもを危険な労働から守り、すべての子どもが質の良い教育を受けられることをめざし、2009年からスマイル・ガーナプロジェクトを実施しています。

2012年4月に最初にプロジェクトをはじめたクワベナ・アクワ村で3年間の活動が終了しました。村の子どもの42%にあたる147人の子どもたちがカカオ農園で働いていましたが、児童労働をや

めて学校へ通えるようになりました。3年間の活動を振り返るため、村人たちから話を聞いたところ、貧しくて買うことが出来ない家庭に学用品を支給したことが、他の家庭でも親が学用品を買い与える動機づけとなったそうです。その結果、村全体の就学率が上がりました。クワベナ・アクワ村での支援活動は4月に終了しましたが、「自分たちの力で村を良くしていこう！」と、児童労働をなくしていく意志が確実に村の人たちに引き継がれています。

2011年から活動を始めたパソロ村、ウルベグ村、アナンス村でも、家計が厳しい家庭の子ども84人に学用品を支給しました。その結果、3つの村では1年間に79人の子どもが児童労働をやめて学校に通えるようになりました。

学用品が支給されて毎日学校に通うようになった子どもたち



●ガーナ・カカオ生産地の子ども支援活動「スマイル・ガーナ プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	アシャンティ州 アチュマンブニョア郡 クワベナ・アクワ村（2009年2月～2012年4月） パソロ村、ウルベグ村、アナンス村（2011年6月～2014年5月）	
主な受益者	18歳未満の子ども（約2,000人）、カカオ生産農家（約560世帯）	
パートナー団体	CRADA（Child Research for Action and Development Agency）	

※本プロジェクトの実施には、「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」の売上の一部と、森永製菓株式会社、株式会社フェリシモLOVE&THANKS基金、チョコレートデザイン株式会社などの法人、および個人の方々からのチョコ募金を活用させていただきました。

●3年間で児童労働がなくなり、カカオ農家の収入も向上しました

活動が終了したクワベナ・アクワ村では、3年間の変化や成果を測るため、参加型評価を実施しました。100人以上の子どもや住民にヒアリングし、ほぼすべての児童労働がなくなったこと、カカオ農家への農業訓練により収穫量や収入が向上していること、プロジェクトの活動が住民によって継続されていることが確認できました。評価内容は、村人にも住民集会で共有し、課題や提案などについて積極的な意見交換ができました。評価を通じて得られた学びや改善点は、今後プロジェクトを広げていく際に活かしていきます。



住民集会で評価結果を報告

●住民の力で教育環境の改善に取り組んでいます

2年目の活動が始まったパソロ村、ウルベグ村、アナンス村では、住民の自発的な取り組みによる教育環境の改善が進みました。ウルベグ村では不足していた幼稚園の校舎が、パソロ村では教員用宿舎の建設が始まっています。プロジェクトが始まる前、お互いを批判し合っていた学校の先生や親、村のリーダーたちが、子どもの教育をよくするために協力しあうようになった証といえます。



自分たちで建設中の教室の下でミーティング

学用品の支給を受けて学校へ通えるようになったバルキスちゃん

ウルベグ村のバルキスちゃん（11歳）は4人姉弟の長女で、おじいさん、お母さん、親戚と一緒に暮らしています。教育費がまかなえずバルキスちゃんは、学校に行かずに、カカオ生産の仕事をしていました。プロジェクトで始めた見回り活動によって、バルキスちゃんは学校へ通えていないことが分かり、学用品の支給を受けてから通えるようになりました。子どもが児童労働をしている家庭の多くは、シングルマザーであったり、10代で妊娠・出産していることが分かりました。早婚や低年齢での出産などの問題にも取り組んでいく必要があります。



家族と一緒に支給された学用品を持ったバルキスちゃん（前列中央）



国際協力事業（ガーナ）担当 近藤 光

2012年の4月から新しくガーナ事業の担当になりました。今までも国際協力の仕事にかかわってききましたが、NGOでの仕事は初めてで、最初は戸惑うことばかりでした。しかし、村を訪れるたびにACEの取り組みが現地の方々にとても歓迎されていて、児童労働の撤廃と教育の重要性について村人が非常によく理解していることを目の当たりにし、とてもやりがいのある仕事だと感じました。今年もそんな現地の人たちと一緒に頑張っていきたいと思っています。

■ 国際協力事業：ピース・インド プロジェクト

「自分に自信を持てるようになりました」 住民による取り組みで子どもの教育環境が改善

インドのコットン生産地域で1年間に68人の子どもが学校に通えるようになりました

世界第2位のコットン生産国インドでは、多くの子どもたちが学校へ行けずコットン畑で働き、農薬などの健康被害に苦しんでいます。ACEはインドのコットン生産地で子どもたちを過酷な労働から守り、教育を支援するピース・インド プロジェクトを2010年からアンドラ・プラデシュ州のナガルドーディ村で実施しています。

村では、教育を十分受けられなかった女の子たちが、将来の自立のための教育や技術を身につけられるよう、基礎教育と技術訓練を始めました。技術訓練で裁縫を身につけ仕立屋を始めた女の子もいます。

子どもたちの Before & After

マヘシュエリちゃん(14歳)は、父親にコットン畑で働くように言われ、学校へ行くことができませんでした。プロジェクトが始まってからは自分の意思でブリッジスクール*に通い始めましたが、父親の反対に合い来なくなってしまいました。それでも、スタッフや住民が何度も父親を説得した結果、職

業訓練センターへ再び通えるようになりました。みんなに追いつくため必死に勉強し、今では自分で洋服を作れるようになりました。「学ぶことができ、自分に自信を持てるようになりました」と話してくれました。子どもやその家族が希望を持って生活できるようになったことが何よりの変化です。



コットン畑で働いていたときのマヘシュエリちゃん(2010年9月)



自分が作った洋服をみせてくれたマヘシュエリちゃん(2012年9月)

*ブリッジスクールとは、働いていた子ども達に基礎的な読み書きや計算などを教え、村の公立学校へ編入できるよう橋渡しをする学校のこと。

●インド・コットン生産地の子ども支援活動「ピース・インド プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	アンドラ・プラデシュ州 マハブナガル県 ナガルドーディ村（2010年1月～2014年3月）	 <p>アンドラ・プラデシュ州</p>
主な受益者	5～17歳の子ども約600人、親や住民約2,000人	
パートナー団体	SPEED（Society for People's Economic & Educational Development）	

※本プロジェクトの実施には、「コットンボールOCハンカチ」の売り上げの一部と日本教職員組合、グンゼ株式会社、株式会社フェリシモなどの法人、および個人の方々からのコットン募金を活用させていただきました。

●コットン畑で働く子どもの姿がなくなりました

住民グループによる就学状況の見回り活動や家庭訪問、働く子どもの親との話し合いなどを通じて、コットン畑で働いたり家事労働をしていた子ども68人が教育を受けられるようになりました。そのうち53人が公立学校へ就学し、15人がプロジェクトで運営しているブリッジスクールに通っています。村では、親が子どもを学校へ通わせるようになり、コットン畑で働く子どもの姿は見られなくなりました。



ブリッジスクールで勉強する子どもたち

●住民、学校、行政が連携して、村の教育環境が大きく改善しました

教員や親、生徒、村長が参加する学校運営委員会を通じて、行政に改善を要請してきた新しい校舎やトイレの設置、教員の補充が実現しました。また、村で就学児童数が増え、中途退学者も減っていることが教育局から評価され、学校にコンピュータールームが設置されました。教員や住民が自発的に資金を集め、学校の机と椅子、発電機の整備などに取り組むようにもなりました。「きちんとした格好をさせて、子どもたちに気持ちよく学校へ通ってもらいたい」と親たちが考え、制服のネクタイとベルトを揃えることにしたそうです。



教室の机や椅子、制服のネクタイとベルトを住民たちが協力して揃えました

●女の子の自立へ向けた技術訓練や母親の収入向上が進みました

女の子たちがグループを作って、女子差別や児童婚などの問題について話し合うようになりました。教育を十分に受けられなかった14歳から17歳までの女の子18人は、基礎教育と技術訓練を受け、仕立て屋を始め、収入を得られるようになりました。また、貧しい家庭の母親約50人は、養鶏・養羊ビジネスや自助グループによる少額融資制度について訓練を受け、子どもの学用品を必要な時に購入できるようになりました。



職業訓練センターでミシンの練習をする女の子たち



国際協力事業(インド)担当 成田 由香子

住民が集会を開いて「日本の人たちが支援してくれているのに、なぜ自分たちで村を良くできないんだ！自分たちでもできることはあるはずだ！」と話し合ったそうです。そんな住民が協力し合って自発的に村の改善に取り組んできた成果が見えてきました。「プロジェクトが終わった後も自分たちで継続して活動していけるようにしよう。そして他の村の人たちにもノウハウを伝えられるようにしよう！」と話しています。住民たちと一緒に、さらに気を引き締めて行こうと思います。

■ 国際協力事業：「子どもにやさしい村」プロジェクト

「教育は子どもの将来や家族のために必要なもの」 村の自立に向けた子ども参加と住民参加のしくみが定着

インドの農村地域で1年間に26人の子どもが学校に通えるようになりました

2010年からラジャスタン州の3つの村で、児童労働をなくし、すべての子どもが学校で質の良い教育を受けられるよう支援する「子どもにやさしい村」プロジェクトを実施しています。

各村には、子どもの代表者による「子ども村議会」ができ、子どもたちがおとなの村議会や学校運営委員会に参加し、学校の問題について話し合うようになりました。女性グループや青年グループもでき、生活向上のための行政サービスを活用できるようになり、住民が自立して村の改善に取り組む仕組みができてきました。

教育への意識も高まり、農業や放牧、家事労働などをしていて学校に通えなかった子どもや中途退学した子ども26人が、就学し、今では学齢期の子ども全員が学校に通っています。また「子ども村議会」を中心に、子どもたちがおとなの村議会や学校運営委員会での定期会合に参加して、学校の問題を話し合うようになりました。そして、行政への要請を通じて、教室やトイレの設置など学校の改善が進みました。



「子ども村議会」のミーティングで話し合いをしている子どもたち

2003年から行なってきた「子どもにやさしい村」プロジェクトへの支援は、2013年4月をもって終了する予定です。これまでに12の村で、約5,600人の子どもたちを支援してきました。

2013年度はこれまでの活動成果をまとめ、今後も現地スタッフと共に、フォローアップを行なっていきます。これまでご支援いただきまして、本当にありがとうございました。

●インド「子どもにやさしい村」プロジェクトの概要

対象地域 (実施期間)	ラジャスタン州 ジャイプル県 ラグナツプラ村、ビハジャー村、タルヴァ村 (2010年1月～2013年3月)	
主な受益者	就学年齢の子ども約490人と親や住民約2,800人	
パートナー団体	BBA (Bachpan Bachao Andolan)	

※本プロジェクトの実施には、地球市民財団の助成金と、花王株式会社、株式会社フェリシモなどの法人、および個人の方々からのチャイルドフレンドリー募金を活用させていただきました。

●住民たち自身が村を良くしていこうと思うようになりました

女性グループや青年グループの活動が定着し、住民自身が問題を話し合い、改善に向けて取り組むようになりました。住民は、母子保健、インフラ整備、収入向上、貧困家庭のための社会保障などの行政制度を活用できるようになり、「住民が団結して村の問題を話し合うようになりました。時間はかかるけれど、村を良くしようとみんなが思うようになりました。」と話しています。



●親の意識が変わり学校へ通えるようになったマヌちゃん

マヌちゃん(8歳)は、家事労働をするため学校へ通っていませんでした。マヌちゃんの両親は教育を受けたことがなく関心を持っていませんでした。スタッフや村の女性グループのメンバー、学校へ通っている女の子たちが何度も訪問して両親を説得し続けた結果、考え方が変わり、今では「教育は子どもの将来や家族にとってもよい」と考えるようになりました。マヌちゃんは現在小学3年生。一生懸命勉強し、他の子どもたちにも学校へ行くよう働きかけています。



熱心に活動しているマヌちゃんもカメラの前ではちょっと緊張!?

「インドで子どもに会って考える旅」2012実施

8月22日から30日にかけて実施したインド・スタディーツアー「インドで子どもに会って考える旅」には、11人が参加しました。「子どもにやさしい村」プロジェクトで支援している村や児童労働から救出された子どものリハビリ施設「バル・アシュラム」を訪問し、子どもや現地で活動するスタッフとの交流を通して、インドの児童労働の現状や取り組みについて学びました。また、ツアーで学んだことを振り返るグループディスカッションを行い、「自分たちには何ができるか」を考え、意見交換しました。

※プロジェクトへの支援終了に伴い、2013年度はインド・スタディーツアーを行いません。



ツアー参加者と集合写真

●ツアー参加者の声



インド・スタディーツアー参加者 服部麻由子さん(会社員)

村の人たちやバル・アシュラムの子どもたちの話を聞いて、人々の心境の変化を感じ取りました。自分の子どもを学校に送り出す母親たちの喜び、教育を受けるようになって夢を語る子どもたちの姿は印象的でした。児童労働の実態を無くすことにより、守られる子どもたちとコミュニティを目の当たりにして、世界から少しでも児童労働を無くしたい、みんな笑って暮らせるようにしたいと強く思うようになりました。

■ 震災復興支援事業：子どもの権利を守り、被災者と支援者をつなぐ橋渡し

被災地の子どもたちの今

2011年度から継続し、宮城県亶理郡山元町の仮設住宅での住民たちの交流支援、子どもを対象としたワークショップの実施、仙台市の中高校生への生活・教育物資支援のフォローアップなどを行いました。さらに新たな取り組みとして、ACEのインドヤガーナでの活動経験やノウハウを活かして、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)と共に、震災や原発事故の影響を受けた福島の子どもの現状やニーズを調べるアセスメント調査も行いました。自分たちができる範囲のささやかな活動ではありますが、震災の影響を受けた子どもたちの権利の保護に努めることができました。

●山元町の子どもたちへの「ぼくのわたしの たからものワークショップ」を開催

2011年度に引き続き、「たからものワークショップ」を宮城県山元町の子どもたち54人を対象に実施しました。被災した子どもたちが自分たちの思いや経験を共有する機会を提供することで、

子ども自身が持つ「心の傷を癒し回復する力」を引き出すきっかけづくりを行うことができました。

(赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業)



●福島で「子ども・コミュニティアセスメント調査」をセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと共同実施

東日本大震災と原発事故によって影響を受けた福島県の子どもの現状やニーズを確かめるため、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと共同で調査を実施しました。福島県の小学校高学年から高校生157人を対象に、参加型のワークショップ手法を使い、子どもの権利に配慮しながら、直接声を聞き取り、福島の子どもの声を報告書にまとめました。

友だちや家族と離れ離れになるなど震災後の生活の変化に対する戸惑いや将来への不安を抱えていることなどがわかりました。家族や友達と話し合う機会もなかったため、参加した子どもたちから「ほかの人たちの意見も聞けてよかった」「またこのような機会があれば参加したい」などの意見が聞かれました。

グッズ販売を通じた震災復興支援

●エコタワシの販売を通じて、山元町のお母さんたちを応援

9月から宮城県亘理郡山元町の仮設住宅で暮らす女性たちが作るエコタワシ「山元ストロベリータイム」の販売を始めました。山元町の名産品であるイチゴをモチーフにしたエコタワシは、女性たちがひとつひとつ手作りしたものです。パッケージ裏面には作り手の名前が書かれており、ACEからエコタワシを購入された方が、作った女性へお手紙を書いたり、山元町を訪れたりするなど生産者と購入者の交流が生まれました。



エコたわしを作っているお母さんたち

●「てんとう虫チョコ」が陸前高田の復興にも役立っています

売上の一部がガーナへの活動支援につながる「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」は、2012年冬から岩手県陸前高田市の就労支援施設「あすなるホーム」（社会福祉法人燦々会）で袋詰めされ、全国へ発送されるようになりました。ホームの方々は震災直後、地割れや周辺道路の寸断によって、利用者や職員が数日間帰宅できずに避難生活を続けていました。それでも、仕事をするなかで震災を乗り越える力を取り戻していったというお話を聞き、「てんとう虫チョコ」を通じて、被災地の方々の自立にも貢献できればと思い、お仕事としてお願いすることにしました。企業や団体の方々からも「被災地支援にもなるなら」と、たくさんご購入いただいています。岩手県三陸南部の地元紙、東海新報（2013年2月9日）でも取り組みが紹介されました。



「てんとう虫チョコ」を袋詰めする
「あすなるホーム」のみなさん

「この仕事があってよかった。やっていて楽しかった」

社会福祉法人燦々会 あすなるホーム 施設長 西條一恵さん

冬の間は作業が減少するので、依頼をいただき助かりました。私たちが作業するチョコを買ってもらうことが、ガーナの子もたちの教育支援につながることを聞き、とても嬉しく思いました。作業はたくさんの方に分かれていたので、ホームで就労支援を受ける利用者それぞれの個性を活かすことができ

良かったです。職員や利用者からは、「チョコ検品は難しいけど、この仕事があってよかった」「チョコを袋に入れる際にフライ返しを使うなど工夫した」「てんとう虫チョコやカードが可愛くて、やっていて楽しかった！」などの声が聞かれました。



ソーシャルビジネス事業担当 枝廣 久美子

2012年にACEスタッフの一員となりました。「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」は、チョコ包装ボランティアやあすなるホーム、そして購入して下さる方々など、たくさんのご支援のもとに成り立っていることを実感しました。これからもエシカル(倫理的)な商品を通じて、世界の子どもたちとのつながりを、普段の生活の中で身近に感じ、「何か」の行動に移していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

■ 啓発事業：全国各地で児童労働をなくすアクションの実施

ガーナを訪問した若者を中心に「バレンタイン一揆」を実施 児童労働の問題を伝え、アクションの担い手が増えています

ACEは、2009年より「児童労働の問題を伝え、アクションを起こす担い手」を増やす取り組みを行ってきました。その取り組みのひとつ「ユースがつなぐ、日本とガーナプロジェクト」を通じて、日本の若者が各地でアクションを起こしました。

ACEが支援するガーナのカカオ生産地域を訪問した3人の若者を中心に「バレンタイン一揆」が、2012年の2月に開催されました。「バレンタイン一揆」とは、「大切な人へのプレゼントだから、生産者のことも大切にしたいフェアトレードチョコをみんなで買いに行こう!」を合言葉に、フェアトレードのチョコレートをみんな

で買いに行くイベントです。2011年に開催した「ACEユースアカデミー」に参加した仙台や大分、福岡の高校生や大学生たちが企画し、東京や仙台、大分、福岡でも独自の活動を行いました。※東京での活動の様子は、ぜひ映画『バレンタイン一揆』をご覧ください。



仙台で実施した「バレンタイン一揆」の様子



仙台市青葉区のフェアトレードチョコレート販売店前にできた行列

●仙台での「バレンタイン一揆」が地元の新聞で取り上げられました

「途上国の原料や製品を適正な価格で購入し、現地を支援するフェアトレードの取り組みを知ってもらおうと、高校生や大学生らでつくる実行委が初めて企画。仙台と東京・銀座の2会場で開催された。(中略)実行委の宮城学院高3年の齋

藤未歩さん(18)＝宮城野区＝は「震災があって開催するかどうか迷ったが、みんなの絆を示す場にしたかった。一揆をきっかけにフェアトレードをもっと知ってもらいたい」とアピールした」(引用:河北新報 -チョコっとフェアトレード:2012年2月12日)

●ACE会員によるグループ活動が広がっています

ACE会員やボランティアがグループを作り、自ら企画したイベントが定期的実施されるようになってきました。東京・葛西在住の会員を中心としたグループ「ACE Rooters」は、おいしいごはんを食べながら世界の子どものことを考えるイベント「スマイル カフェ ランチ」を3度開催しました。福岡在住の会員を中心とした「ACE福岡グループ(FACE)」は、福岡「地球市民どんたく」などのイベントへ継続的に出展しています。児童労働を伝え、なくすための活動の担い手が増えてきています。



第2回「スマイル カフェ ランチ」で
タイ料理を満喫する参加者

●全国各地で消費者教育など新しいテーマでの出張講演が増加

学校や団体など様々な組織がリピーターとなり、継続的な講演依頼が増えています。三重県伊勢市の中学校では、2011年に株式会社トンボと共同開発した教材を使って「コットン畑における児童労働」をテーマに共同授業を行いました。また、消費者教育として「おいしいチョコレートの真実」を実施した高知市内の中学校では、授業の様子が地元の新聞でも取り上げられました。さまざまな場所における、多様なテーマでの講演は、ACEの取り組みを全国に広げる足がかりとなっています。



出前授業の様子が高知新聞で紹介されました
(高知新聞社提供：高知新聞2012年12月14日)

学校や市民団体への講師派遣実績

42件 / 4,000人参加 (2012年度)

- ・名瀬地区高等学校家庭科研究会 「児童労働からみるフェアトレード」(愛知県)
- ・大阪府河内長野市 南花台公民館 「おいしいチョコレートの真実」(大阪府)
- ・立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 「NGO マネジメント論」(東京都)
- ・早稲田大学本庄高等学院 「仕事、恋愛、社会貢献、どれもあきらめなくていい理由」(埼玉県)
- ・昭和女子大学附属昭和小学校 「世界の子どもとチョコレート」(東京都)
- ・久留米大学 国際交流・協力支援サークル Worcal 「ACEの活動について」(福岡県)
- ・三重県伊勢市立小俣中学校 「コットンと児童労働」(三重県) ※株式会社トンボとの協同授業
- ・高知市立城北中学校(高知市市民生活課) 「おいしいチョコレートの真実」(高知県)
- ・JAICA 筑波 「国際理解教育実践セミナー 2012」 「おいしいチョコレートの真実」(茨城県)
- ・国際ソロプチミスト仙台アイリス 「チョコレートから考える児童労働と私たちに出来る事」(宮城県)
- ・国際ソロプチミスト松山 「チョコレートから考える児童労働と私たちに出来る事」(愛媛県)

ほか



啓発・広報担当：召田 安宏

子どもからおとなまで、さまざまな「児童労働をなくすためのアクション」の実施報告が届いています。ある小学校では、クラスのみんが協力して余ったノートを集め、ガーナの子どもたちのために「手作りノート」を作ってくれました。講演やワークショップに参加したひとりひとりが「私たちにできるアクション」を考えてくれることが、児童労働のない未来へつながっていると信じています。出張講演のご依頼はお気軽にお問い合わせください。

■ 政策提言事業：企業との協働による児童労働のないビジネスづくり

児童労働のない製品づくりへ前進を続けています

児童労働の問題解決のために企業ができることのひとつに、サプライチェーン(製品の原材料の調達、製造、販売の全ての事業プロセス)のなかで児童労働がないか確認し、対応していくことがあります。ACEの重点分野であるカカオ産業とコットン産業の児童労働撤廃のため、企業と共に取り組み、先事例を業界全体に広げていくことを目指しています。企業で働く一人一人に問題意識を持ってもらうため、企業や労働組合への講師派遣やセミナー開催による発信を続けています。

●リー・ジャパン「児童労働のないサプライチェーンのモデルケース完成」

ACEは、企業のサプライチェーンにおける児童労働の撤廃と予防のため、コンサルティング活動を行っています。2010年からリー・ジャパン株式会社の製品で使用されるウガンダのコットン調達現場を調査し、CSR調達(CSRの取り組みを調達先に求めること)の確立に取り組んできました。2012年は、製品ラインに関するCSR調達方針、サプライヤー行動規範、調達ガイドラインなど一連の文書作成をサポートしました。これらの文書は行動規範の誓約書と共に、リー・ジャパン株式会社から一次サプライヤーへ送付されています。ウガンダでの調査の取り組みは、リー・ジャパンのウェブサイトでも公開されました。

●「コットンCSRサミット2012」で業界の連携を促進

5月10日の「コットンの日」に合わせて、「コットンCSRサミット2012」を開催しました。被災地でコットン栽培に取り組む農家やコットンを調達する商社、衣料製造メーカー、セレクトショップ企業など、コットンのサプライチェーンに関わるビジネスパーソンが登壇し、109人の参加者と「人と地球と被災地のためにコットンができること」をテーマに話し合う機会となりました。ACEからも人権問題に対する世界的な潮流とアパレル業界の社会的責任を提言し、インドのコットン生産現場における児童労働への取り組みを紹介しました。アパレル業界関係者への意識啓発と連携促進の場となりました。



コットンに携わる企業、NGO、学生によるパネルセッション

●森永製菓「支援地区のカカオ」を使ったチョコレートを発売

ACEは、2011年から森永製菓「1チョコfor1スマイル」キャンペーンのパートナー団体となり、チョコレート商品の売上から寄付をいただき、ガーナでの支援活動を行ってきました。その中で目指してきたことが、支援地区で採れたカカオを使って「児童労働のないチョコレート」を作ることでした。カカオの輸入商社である立花商店の協力もあり、地域を指定したカカオ調達の実現し、支援地区のカカオを使ったチョコレートが森永製菓から販売されました。一連の取り組みは、コース・リレーテッド・マーケティング(製品の売上の一部を社会貢献活動に寄付する取り組み)にとどまらず、原材料の調達先を変え、児童労働のない商品作りに取り組んだ、これまでにない新しいCSRといえます。



ACEは児童労働や人権をテーマにした講師派遣のご依頼やCSR調達、BOPビジネスなどの相談を受け付けています。ぜひ、ウェブサイトからお問い合わせください。

「個人や企業の参加の機会」が広がっています

●企業・個人の協力により「てんとう虫チョコ」累計4万パック販売

ACEは、カカオ生産地で児童労働をなくし、カカオを作る人もチョコレートを食べる人も、みんなが一緒にしあわせになれるように、「しあわせへのチョコレート」プロジェクトを行っています。その一環として、売上の一部が寄付になる「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を2009年から販売しています。

2012年1月に中日新聞・東京新聞の「エコなイッ品」で紹介され、記事を見た方から電話注文が多数寄せられました。社内でのチョコ販売や包装作業へのボランティア参加には、60の企業・団体が協力してくださいました。「てんとう虫チョコ」は、2012年は約14,000パックを販売し、2009年の販売開始から累計約4万パックを販売し、約650万円の寄付金が集まりました。



事務所でチョコボランティアの様子
のべ200名以上の方に参加いただきました

「てんとう虫チョコ」の販売や共同購入、 ボランティア参加にご協力くださったみなさま、ありがとうございました！

Hair Design Lagurus、NANA CAFE株式会社、NTT労働組合（西 本社総支部、ファシリティーズ本部、東京グループfrage連絡会）、poco、RIVENDEL、Smile Earth、UAゼンセン（本部、神奈川県支部）、UBS証券会社、village、WE21ジャパンほどがや、アプレール洋菓子店、アロマサロン Auberge、ぐらする一つ、こびすくらぶ、ソニー株式会社、ソルト・パヤタス、ナチュラル ストゥーディオ、パナソニックグループ労働組合連合会事業本部、バンビーノバンビーナ、びすた〜り、

プチ エプロン、マウンテン瀬田、みずたまカフェ、ミスミヤ、みんなのセンターおむすび、レプラコーン。、英会話教室 さくらんぼ、株式会社 ジューシービー、株式会社セールスフォース・ドットコム、株式会社 ディ・エフ・エフ、株式会社フェリシモ、株式会社リコー、日本フィランソ ロビー協会、三菱商事株式会社、社会福祉法人けやきの杜 希望園、社会福祉法人燦々会 あすなるホーム、大和証券グループ、風's、有限会社オーガニックフォレスト ほか

●女性起業家 佐々木かをりさんが「自分磨きで社会貢献」セミナーに登壇

参加費が寄付になる「自分磨きで社会貢献」セミナーに、株式会社イー・ウーマンと株式会社ユニカルインターナショナルの代表取締役社長 佐々木かをりさんをゲスト講師にお迎えし、自分をハッピーにするための時間管理術をテーマにお話いただきました。佐々木さんの「自分を幸せにできるのは自分だけ」、「マイナスを作らない生き方ではなくプラスを生み出す生き方」など印象的なメッセージに、参加者も熱心に聞き入っていました。このセミナーは、使わなくなったブランド品や本・CD・DVDなどを集めて寄付する「BAG TO THE FUTUREキャンペーン」の一環で開催しています。2012年度は、72の個人・法人の方々が本やブランド品などを寄付してくださいました。



テーマは「ハッピーワーク&ライフマネジメント〜キャリア・結婚・子育て どれもあきらめなくていい理由」



ソーシャルビジネス事業 担当：山下 みほこ

設立15周年事業やグッズ販売、BAG TO THE FUTUREキャンペーンを通じて、たくさんの方に活動に参加いただくことができた一年でした。ご支援とご協力に改めて感謝申し上げます。陸前高田市の「あすなるホーム」に「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」の包装と発送をお願いしたことで、被災地とチョコを買ってくださる方々、そしてガーナの子どもたちをつなぐことができました。これからも「ACEらしさ」を大切に、みなさまとつながりながら、次の一歩を踏み出していだく「きっかけづくり」をしていきたいと思います。ぜひご参加ください！

■ ネットワーク構築・協働事業／政策提言事業：政府や他セクターへの働きかけ

ネットワークで協働してきたからこそ得られた成果

ACEは設立当初から「ネットワークを最大限活用する」をモットーに、共通の目的をもった他団体との協働やネットワーク活動に取り組んできました。2004年にACEが中心となり設立した児童労働ネットワークをはじめ、CSRやチョコレート、国際協力、NPOなどのネットワークに参加し、ACEの知見や経験を共有し、各ネットワークの運営に貢献しながら、他団体との協働を通じて社会変革を進めています。

● 児童労働反対世界デーキャンペーンで 元子ども兵士が来日(児童労働ネットワーク主催)

児童労働の中でも「最悪の形態」とされる子ども兵士。6月10日にキャンペーンメインイベント「ぼくは5歳で兵士になった～元子ども兵士が語る最悪の児童労働～」を開催。フリーザ・チルドレン・ジャパンが招聘した元子ども兵士のミシェル・チクワニネさんが登壇し、自身の壮絶な体験を語ってくれました。他にも、コンゴの元子ども兵士に出会う日本の子どもの劇を子どもたちが演じ、国際労働機関(ILO)やNGOの取り組みを紹介するパネルディスカッションを行いました。過去最多の664人が参加し、子どもたちの未来に向けて何ができるか考えるイベントとなりました。7年間、6月12日の児童労働反対世界デーにあわせて協働イベントを行って来ましたが、共催団体であるNGO-労組国際協働フォーラムの関係者からも「これまでで1番良かった!」と感想がありました。キャンペーンには36の労働組合と企業、NGOが参加し、各団体が開催するイベントやソーシャルメディアを通じて、19,526人に児童労働の問題を伝えることができました。



メインイベントに登壇した
元子ども兵士のミシェル・チクワニネさん

● 過去最多28万5,140筆の 「世界から児童労働をなくそう」署名に初めて政府が回答

児童労働撤廃へ向けた日本政府の取り組みが他の先進諸国とくらべて著しく少ないことから、児童労働ネットワークでは2008年から署名活動を行い、取り組みの強化を提言してきました。2012年はNTT労働組合や日本教職員組合などの協力もあり、過去最多の28万5140筆が集まりました。署名は内閣府、外務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の大臣や副大臣、政務官に提出し、署名要請事項の実現に向けた提案書も提出しました。その結果、長年の提言に対する政府からの回答として、各省庁における児童労働への取り組み状況をまとめた一覧表を得ることができました。5年間で累計78万筆を集めてきた署名活動が政府の姿勢を少し後押ししたことになります。今後もさらに政府に対し、児童労働撤廃へ向けた取り組み強化を求めています。



小宮山内閣府特命担当大臣(少子化対策)及び
厚生労働大臣への署名提出の様子(中央右)

●チョコレート・アライアンス 「愛のあるチョコレート」を広めました

ACEは、フェアトレードやオーガニックなど、作る人や食べる人、環境にもやさしい「愛のあるチョコレート」の認知を高め、広げるために活動する「チョコレート・アライアンス」に参加しています。2012年はフェアトレード団体やNGO、企業など10団体と共に「愛のあるチョコレートキャンペーン」を行いました。「愛のチョコレート宣言」を作って賛同を呼びかけたほか、2月4日に「チョコレート・サミット2012」を開催しました。サミットには、映画『バレンタイン〜掬』に出演した3人の若者も登壇し、150人が参加しました。11月2日にはメディアや企業向けにサミットを開催しました。買う人と作る人のそれぞれから「愛のあるチョコレート」の広まりが加速するよう呼びかけました。



チョコレート・サミット2012参加者のみなさん

●NPO/NGOなどの市民社会組織への貢献

ACEは計21のネットワーク組織に加盟し、各ネットワークで他団体と協働しています。国際協力NGOセンター(JANIC)の副理事長や全国社会福祉協議会ボランティアセンターの広報委員、他のNPO法人の評議員などを務め、学び合いながら、市民社会組織全体の成長のために役割を担っています。

ACEが加盟しているネットワーク組織一覧 21ネットワーク (2012年12月現在)

ACEが事務局、運営委員、理事、評議員などを務め主体的に関わっているネットワーク

- ・児童労働ネットワーク (CL-Net)
- ・チョコレート・アライアンス
- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム
- ・NGOと企業の連携推進ネットワーク
- ・CSRを応援するNPO・市民ネットワーク
- ・社会的責任に関する円卓会議「地球規模課題への参画」ワーキンググループ フォローアップ会合
- ・開発教育協会 (DEAR)
- ・国際協力NGOセンター (JANIC)
- ・日本NPOセンター
- ・Salesforce ユーザグループ

参加ネットワーク

- ・教育協力NGOネットワーク (JNNE)
- ・TICAD V NGO コンタクトグループ
- ・動く→動かす
- ・NGO福岡ネットワーク (FUNN)
- ・社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク
- ・CSRレビューフォーラム
- ・人身売買禁止ネットワーク (JNATIP)
- ・フェアトレード推進会議
- ・東日本大震災支援全国ネットワーク
- ・東日本大震災子ども支援ネットワーク
- ・Global March against Child Labour (児童労働に反対するグローバルマーチ)



政策提言事業 ネットワーク構築・協働事業担当: 植木 美穂

これまで積み重ねてきた協働が成果として芽を出し、むくむくと育ったのを感じた年でした。児童労働ネットワークを通じた署名活動で、各省庁の児童労働に対する取り組みの一覧表を政府からの回答として得られました。また、森永製菓による「支援地区のカカオを使ったチョコレート」が、カカオ生産者をはじめ、カカオ調達を担当した立花商店など、多くの方のご協力で実現することができました。児童労働のない未来をみんなで作っていくため、関係者をつなぎ、応援し、リードする—これからも、そんなACEでありたいと思っています。

2012年度 活動評価

ACEでは、1年間の活動をACEスタッフが振り返り、評価した内容を会員やサポーターなど支援者の方々に報告し、評価していただく「活動評価会」を行っています。2013年3月20日にACE総会と合わせて2012年度活動評価会を実施しました。

ACEによる自己評価と、評価会で支援者の方々にいただいた評価とコメントをご紹介します

< ACE の自己評価基準 >
5：目標以上の成果を達成
4：目標の 100%～90%を達成
3：目標の 89%～70%を達成
2：目標の 69%～50%を達成
1：目標の 49%未満の達成



活動評価会にて評価を検討している様子

2012年度 ACE 自己採点		総合評価 (5点満点)
		3.8
子ども支援		ACE 自己評価
国際協力事業	ガーナでのプロジェクト評価を通じて、教育+家庭の経済的自立支援アプローチと、行政との連携や住民の能力強化などの手法が、児童労働をなくすために効果的で、継続性を高めることが確認できた。	4.0
震災復興支援事業	できる範囲での支援活動を行う方針のため積極的な取り組みはできなかったが、ACEが持つスキルや経験、すでにある活動を活かす形で貢献できた。	3.5
意識と行動		ACE 自己評価
啓発事業	2010年頃より3年間かけて取り組んできた「児童労働をなくすアクションの担い手を増やす」活動が形になりはじめた。	4.5
広報事業	団体認知度が飛躍的に上がったとはいいがたいが、ウェブリニューアルや映画の完成など、認知度を上げるための下準備を整えることができた。Facebookなど、効果の高い方法も有効活用できるようになった。	3.5
設立15周年事業	映画やイベントを通じて、ACEの活動や実績、支援者の方々への感謝の気持ちを伝えることができた。2013年度も伝えるツールとして映画を有効活用し、ACEを知る人を増やし、丁寧なコミュニケーションを心がけ、支援者獲得、財政基盤の強化につながるよう取り組む。	4.0
ソーシャルビジネス事業	周年事業を通じて、これまでもつながりのあった支援者との関係を深め、支援拡大の下地をつくることできた。支援地区のカカオを使ったチョコレートを実現し、「児童労働のないチョコレート」の実現へ大きな一歩を踏み出した。	3.5
ビジネスと消費、政府への提言		ACE 自己評価
政策提言事業	森永製菓との協働で支援地区のカカオを使ったチョコレートの商品化。リー・ジャパンによるCSR調達の基本文書作成など、児童労働のないサプライチェーン作りのモデルを作ることができた。	4.0
ネットワーク構築・協働事業	参加ネットワークが増え、他団体・企業等とのネットワークが拡大、強化されてきた。それに伴い共通意識を持った組織も増加し、目的に近づいているといえる。	4.5
組織		ACE 自己評価
組織運営	就業規則の改訂や残業時間の削減など、労働環境の改善に取り組み、一定の成果を上げることができた。今後3年間の中期戦略の策定も進め、全体で組織の方向性を確認できたことがよかった。組織的な取り組みをより計画的かつ効率的に行うことや組織内のコミュニケーションの改善が課題。	3.0

2012年度 ACE 通知表（支援者のみなさまからの評価）

総合評価(5点満点)

4.1

子ども支援	①国際協力事業 ②震災復興事業	評価
		4.2
<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナの活動評価結果を今後の活動に活かしてもらいたい ・成果が出た仕組みがメソッドとしてまとまっていれば横展開できる ・5点満点だけど6点付けたいくらい ・長期的な計画での資金面やガーナでの成功をどう幅広く展開するのが課題 ・全員で振り返ったプロジェクトの評価手法がすばらしい ・ACEらしい活動に集約できていたのか。例えば「子どもの人権」という観点から活動ができたか ・「子ども村議会」の仕組みや取り組みは日本でも必要 ・震災支援事業の継続を期待 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利に拘わるのがACEらしい支援の在り方でドナーに対しても説明責任も果たせる ・被災地支援にACEが関わり続ける必然性はあるのか ・子どもの心の傷のケアについては専門家に任せた方が良いのでは？ ・てんとう虫チョコ包装作業を被災地に委託したのは良いアイデア ・成果は出ているがもっとがんばれるはず ・地味だが高い評価に値する ・スタッフが少ない中、日本の子どもたちにも目を向けた活動の評価 ・福島の子どもの声について今後も取り組んで欲しい 	
意識と行動	⑤啓発 ⑥広報 ⑦設立15周年事業 ⑧ソーシャルビジネス	評価
		4.1
<ul style="list-style-type: none"> ・「バレンタイン一揆」は今までにない試みで若者のバイタリティに感動 ・大手会社の製品への原料供給までいけたことは高評価 ・森永製菓との協働や映画『バレンタイン一揆』のさらなる活用に期待 ・ACEだけでなく、児童労働をなくす活動を支援している点が高評価 ・森永ダースの売上を知りたい ・ACE自身の評価は厳しくないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやソーシャルメディアを使用しない人への働きかけにも力を入れるべき ・正会員が他の収入に比べて少ないのが気になる ・ACEグッズを活用したいが種類が少ない ・ダースは買ったが、特別商品は見つけられず残念 	
ビジネスと消費、政府への提言	③政策提言 ④ネットワーク	評価
		4.1
<ul style="list-style-type: none"> ・「児童労働」などのつぶやきが5年間でどれだけ増えたか定点観測するのはどうか ・森永製菓との協働はNGOとして非常に大きな功績 ・企業への活動が広がったのが大きい ・署名活動は参加しやすいのでぜひやりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の分けと戦略が一致してないのでは？ ・結果は評価できるが目標を明確にした方が成果を測りやすい ・円卓会議の効果は？初めて知りました。認知度が低い ・「児童労働のないチョコレート」の認証はどうやってするのか疑問 	
組織	⑨組織	評価
		4.1
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが働き過ぎになっていないか心配 ・あまり無理しないでください(健康第一!) ・少ない人数でもワークライフバランスや労働環境を意識していて素晴らしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人としてきちんと組織運営している印象 ・人件費をブラックボックスにしない組織であってほしい ・スタッフの権利も守る団体を支援したい 	
総合コメント		
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて総会に参加したが良い雰囲気です満足感が高かった ・各アクターとの連携を進めるのが重要 ・参加型評価で客観的に把握しようと努めたことは評価できる ・出来なかった事の原因の理由の解明と反省でPDCAを回して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の成長ぶりは目を見張るものがあった ・スタッフの定着率も高く非常に良く運営されている ・啓発活動は規模と比例するので効果的な手法を ・今後の活動に大変期待できる 	

評価会参加者の感想 会員 木村和郎さん(社会人)

「総会で評価？」と、初めはあまり意味がわからなかったのですが、ACEの活動成果を参加者全員で確認し、スタッフと支援者で生の意見交換をすることができました。報告書だけではなかなか伝わりにくかった部分も直接スタッフに聞くことができ、大変有意義な時間でした。その後の懇親会では支援者同士の横のつながりもできました。会員として何かできることはないかとみんなで熱く語った一日でした。

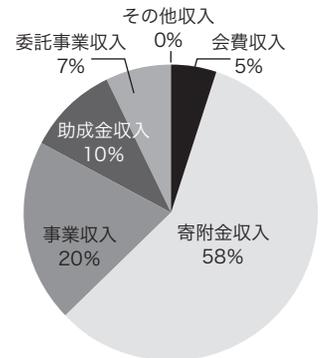
会計報告

2012 年度会計収支計算書 および 2013 年度事業会計予算書

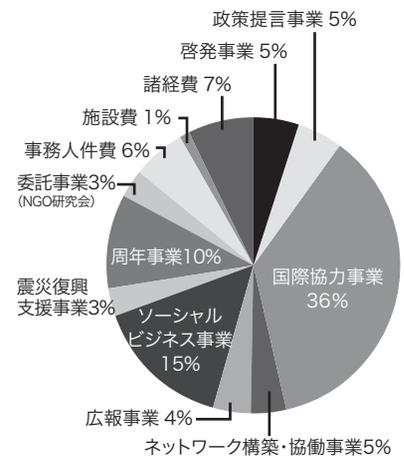
(単位：千円)

科目	2012 年度予算	2012 年度決算 (2012 年1月1日～12月31日)			達成率	2013 年度予算	増減率
		全体	本 体	世界の子どもの 権利基金			
収入の部							
1. 会費収入	3,784	3,496	0	3,496	92%	4,240	121%
正会員	1,524	1,488		1,488	98%	1,650	111%
賛助会員	1,080	708		708	66%	1,080	153%
法人・団体賛助会員	1,180	1,300		1,300	110%	1,510	116%
2. 寄附金収入	43,252	32,001	8,051	40,052	93%	49,593	124%
ACE111 寄付	7,168	4,014		4,014	56%	7,168	179%
マンスリーサポーター	5,804	5,678		5,678	98%	7,410	130%
チャイルドフレンドリー募金	2,015	1,200		1,200	60%	2,015	168%
チョコ募金	17,460	14,882		14,882	85%	18,000	121%
コットン募金	3,800	5,421		5,421	143%	6,300	116%
東日本応援募金	905	805		805	89%	700	87%
世界の子どもの権利基金	6,100	0	8,051	8,051	132%	8,000	99%
3. 事業収入	12,874	14,205	0	14,205	110%	14,002	99%
啓発事業	2,358	2,514		2,514	107%	2,936	117%
政策提言事業	2,610	2,000		2,000	77%	2,500	125%
国際協力事業	1,710	2,661		2,661	156%	300	11%
ネットワーク構築・協働事業	440	467		467	106%	240	51%
広報事業	202	110		110	54%	300	274%
ソーシャルビジネス事業	5,305	5,682		5,682	107%	6,298	111%
震災復興支援事業	-	508		508	-	548	108%
周年事業	250	263		263	105%	880	334%
4. 助成金収入	10,610	7,094	0	7,094	67%	6,300	89%
5. 委託事業収入	4,644	4,644	0	4,644	100%	2,250	48%
6. その他収入	2	54	0	54	-	2	4%
利息収入	2	2	0	2	-	2	101%
その他		52		52	-	0	0%
経常収入合計 (A)	75,166	61,493	8,051	69,544	93%	76,387	110%
支出の部							
1. 事業費	64,050	56,956	0	56,956	89%	61,040	107%
啓発事業	3,179	3,662		3,662	115%	2,921	80%
政策提言事業	5,359	3,353		3,353	63%	5,355	160%
国際協力事業	29,178	25,061		25,061	86%	29,350	117%
ネットワーク構築・協働事業	1,693	3,054		3,054	180%	2,397	78%
広報事業	4,193	2,457		2,457	59%	2,342	95%
ソーシャルビジネス事業	11,676	10,615		10,615	91%	11,864	112%
震災復興支援事業	3,168	1,767		1,767	56%	1,986	112%
周年事業	5,604	6,987		6,987	125%	4,824	69%
2. 委託事業支出	1,788	1,965	0	1,965	110%	0	0%
3. 管理費	9,326	10,333	0	10,333	111%	13,868	134%
事務人件費	3,585	4,432		4,432	124%	7,082	160%
施設費	1,481	957		957	65%	1,500	157%
諸経費	4,259	4,943		4,943	116%	5,286	107%
経常支出合計 (B)	75,163	69,253	0	69,253	92%	74,908	108%
経常収支差額 (C)=(A)-(B)	3	△ 7,760	8,051	291		1,479	509%
その他資金収入	8,966	7,906	0	14,742		0	
その他資金支出	0	0	6,192	6,192		0	
当期収支差額	8,968	7,898	1,859	8,840		1,479	
当期正味財産増加	3	290	0	291		1,479	
前期繰越正味財産	8,966	8,397	569	8,966		9,256	
次期繰越正味財産	8,968	8,687	569	9,256		10,735	

2012 年度 収入内訳



2012 年度 支出内訳



★2010年3月31日付けで、ACEは国税庁より認定NPO法人として認定されました。みなさまからのご寄付は、税額控除または、所得控除の対象になります。詳しくはACEウェブサイトをご覧ください。

(注記)

注1：各事業費には、担当者の人件費が含まれています。

注2：2012年度の委託事業の収入と支出は、「平成23年度外務省委託NGO研究会」です。精算払いとなるため、収入は2011年4月～2012年3月分をまとめて、支出は2012年1月～3月分となります。

貸借対照表

(単位：円)

I 資産の部	
科目	金額
1. 流動資産	14,369,028
現金・預金	12,595,545
現金	258,017
郵便振替	2,636,636
普通預金	9,700,892
売上債権	57,790
売掛金	57,790
棚卸資産	1,714,638
立替金	1,055
2. 固定資産	1,383,523
建物附属設備	183,522
車両運搬具	1
敷金	1,200,000
資産合計	15,752,551

II 負債の部	
科目	金額
流動負債	3,346,213
未払金	2,456,287
前受金	51,175
預り金	427,951
未払法人税等	70,000
未払消費税	340,800
固定負債	3,150,000
預託金	3,150,000
負債合計	6,496,213

III 正味財産の部	
科目	金額
正味財産合計	9,256,338
前期繰越正味財産	8,965,661
当期正味財産増減額	290,677
負債及び正味財産合計	9,256,338

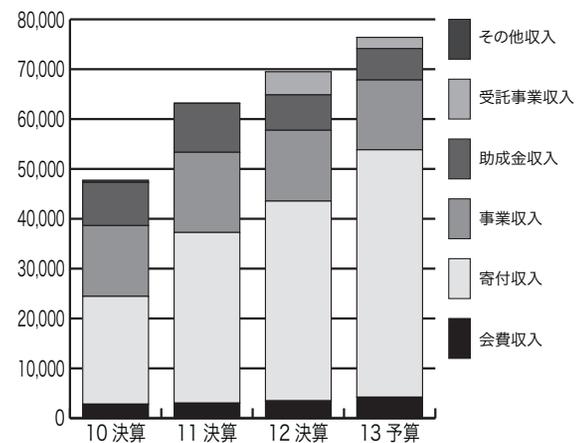
<重要な会計方針>

1. 資金の範囲は、現預金および短期金銭債権債務です。
2. 棚卸資産は、最終仕入原価法により計上しています。
3. 有形固定資産は、法人税法の規定に基づき定率法により償却しています。
4. 現金のうち、243,022円は外貨であり、期中レートによ換算し、期末日にTTMにより評価しています。
5. 消費税は、税込経理により処理しています。

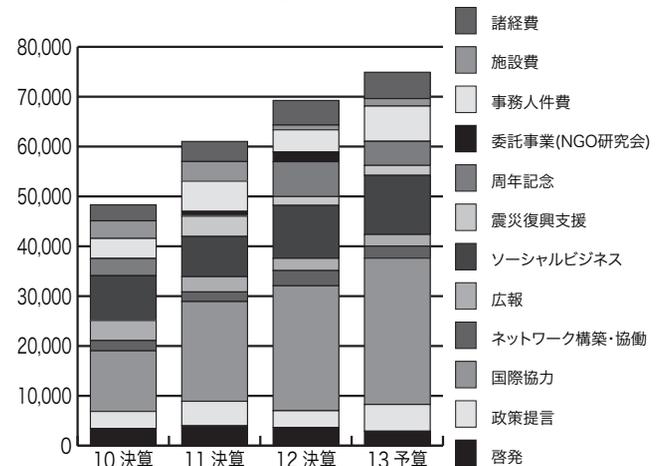
<貸借対照表の注記>

1. 有形固定資産の減価償却累計額 3,033,103円

収入の推移 (単位：千円)



支出の推移 (単位：千円)



※震災復興支援事業は2011年より開始

監査報告書



財務状況の分析

- ・2012年度は、15周年事業の活動資金として、世界の子どもの権利基金の獲得に力を入れ、予算を上回る寄付を集めることができました。いただいたご寄付は、映画の製作や記念イベントの実施などに活用し、2013年度も引き続き、全国での映画上映会の実施などに活用していきます。
- ・寄付収入全体では達成度93%でしたが、前年度に比べて15%増加し、収入全体に占める寄付の割合が、昨年度の54%から58%に増えました。会費、寄付、事業収入を合わせた自己資金の割合は83%で、ほぼ昨年並みとなり、高い自己資金比率を維持することができました。
- ・支出については、昨年度まで管理費として支出していた地代家賃や通勤費、法定福利費などの共通費を、今年度から各事業に按分して計上するようになりました(各事業にかかる担当スタッフの人員費も各事業支出に含まれています)。その結果、支出全体に占める管理費の割合は14%、事業支出の割合が86%となっています。
- ・収入、支出全体とも達成度が93%、92%となり、収支のバランスを保つことができましたが、組織を安定的に運営していくためには、会費収入や継続した寄付であるマンスリーサポーターを増やしていく必要があるため、2013年度は支援者の増加に特に力を入れていきます。

ご支援いただいた企業・団体一覧

2012年度も多くの企業、団体のみなさまにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、心より感謝いたします。

●法人・団体会員

- ・株式会社アバンティ
- ・ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
- ・SU小ACEを支援する会
- ・株式会社クレアン
- ・グローバルリンクマネジメント株式会社
- ・株式会社シンゾーン
- ・仙台児福会同窓会
- ・仙台 ACE 支援書道教室
- ・株式会社立花商店
- ・特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク
- ・特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
- ・フード連合 (日本食品関連産業労働組合総連合会)
- ・株式会社ほまれフーズ
- ・みちのくポテトクラブ
- ・ミニストップ株式会社
- ・UA ゼンセン (旧 UI ゼンセン同盟)
- ・リシュモン ジャパン株式会社 クロエ

●ご寄付 (15周年事業への協賛含む)

- ・アサヒワンプールクラブ
- ・味の素株式会社
- ・株式会社アバンティ
- ・伊勢市立小俣中学校
- ・特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや
- ・特定非営利活動法人 WE21 ジャパンよこすか
- ・NTT 労働組合
- ・花王株式会社
- ・グローバルリンクマネジメント株式会社
- ・グンゼラブアース倶楽部
- ・KDDI 労働組合
- ・株式会社晶文社
- ・情報産業労働組合連合会
- ・株式会社シンゾーン
- ・住友商事株式会社
- ・大正紡績株式会社
- ・タカシマヤ "一粒のぶどう基金"
- ・中央ろうきん社会貢献基金
- ・チョコレートデザイン株式会社
- ・株式会社電通
- ・日本教職員組合
- ・フード連合 (日本食品関連産業労働組合総連合会)
- ・パタゴニア日本支社
- ・三井物産株式会社
- ・株式会社フェリシモ
- ・宮城学院中学校・高等学校
- ・株式会社都田建設
- ・森永製菓株式会社
- ・UA ゼンセン (旧 UI ゼンセン同盟)
- ・横浜雙葉高校
- ・リー・ジャパン株式会社
- ・リシュモン ジャパン株式会社 クロエ

※紙面の都合により、5万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみ掲載

●その他の協賛・協力

- ・株式会社イー・ウーマン
- ・NTT 労働組合 東京グループ連絡協議会
- ・NTT 労働組合 西日本本社総支部
- ・Q.,Ltd 株式会社キュー
- ・株式会社セールスフォース・ドットコム
- ・TYO Inc. Camp-KAZ
- ・電通ソーシャル・デザイン・エンジン
- ・株式会社トンボ
- ・ネットワンシステムズ株式会社
- ・博宣インターナショナル
- ・ブックオフオンライン株式会社
- ・三越伊勢丹グループ労働組合
- ・ユナイテッドピープル株式会社
- ・UBS 証券会社

●助成金

- ・特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク
- ・特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC)
- ・財団法人 地球市民財団
- ・社会福祉法人 中央共同募金会
- ・東京都中小企業両立支援推進助成金
- ・日本労働組合総連合会
- ・フェリシモ地球村の基金
- ・東京労働局 実習型試行雇用奨励金

■ ACE の支援方法と使途について

認定 NPO 法人である ACE へのご寄付は「税額控除」や「寄付金控除」の対象となります。
みなさまのご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

会員	正会員 (子ども、一般)	ACE の事業と組織運営全体をご支援いただけます。正会員は総会の議決権を持ち、組織運営に参加いただけます。
	賛助会員 (個人、非営利団体、営利法人)	賛助会員 (個人、非営利団体、営利法人) には議決権はありません。
寄付	ACE111 募金	ACE の中期目標「ACE111」達成のため、国内外の活動に使われる募金です。
	マンスリーサポーター	1,000 円以上の任意の金額を毎月ご寄付いただく制度です。寄付は国内外の各事業に使われます。
	ビジョンサポーター	一口 10 万円をまとめてご寄付いただく制度です。寄付は国内外の各事業に使われます。
	チャイルドフレンドリー募金	海外で実施する国際協力事業を支援する募金です。
	チョコ募金	カカオ生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	コットン募金	コットン生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
基金	東日本応援募金	東日本大震災で被災した子どもや地域を支援するための活動に対する募金です。
	世界の子どもの権利基金	NPO 法人化 5 周年を記念し設立した基金です。周年事業の実施、事業や組織基盤の強化に使われます。

森永製菓から「支援地区のカカオ」を使ったチョコレートが日本で初めて発売!

対象商品1つにつき1円が寄付となる森永製菓「1チョコfor1スマイルマイルキャンペーン」を通じてご支援いただいたガーナの村で採れたカカオを使った商品が発売されました!チョコレートの売上

の一部で農家を支援し、支援地区のカカオを使ったチョコレートを通じて、チョコレートをご購入いただいた方に還元される新しい循環ができました。



森永チョコレート<1チョコfor1スマイル>

2013年1月15日発売。絵本のように“開いて読める”パッケージに商品コンセプトやこれまでの取り組みと成果、商品ができるまでを掲載。(※ACEオンラインショップで販売中)



森永ダース(ミルク)

2012年12月25日発売(数量限定生産)。パッケージ表面の右上に支援地区のカカオマスを一部原料に使用していることを明示。(※数量限定のため、売り切れ次第販売終了)

『朝日新聞 GLOBE』 チョコレート特集で ACEのガーナでの活動が 取り上げられました

2012年1月にガーナに現地取材が入りました。BS朝日「いま世界は」でも活動の様子が放送されました。



朝日新聞 GLOBE チョコレートの、いま (G-1面) 2012年2月5日※朝日新聞社提供

○2012年度 メディア掲載43件(2012年1月1日~12月31日)

【ラジオ:3件】J-WAVE「LOHAS SUNDAY」、FM COCOLO「Heart Lines」 【テレビ:1件】BS朝日「いま世界は」 【新聞:14件】中日新聞、朝日新聞(夕刊)、朝日新聞 GLOBE、東京新聞、日本経済新聞(夕刊)、河北新報、愛媛新聞、中国新聞、神戸新聞、高知新聞、朝日新聞(高知版) 【雑誌:6件】ELLE a table、週刊金曜日、ソトコト、市民メディア「Actio」、海外留学・生活情報雑誌「あの国でこれがやりたい!」、国際開発ジャーナル(No.688) 【機関紙:8件】全国ボランティア・市民活動振興センター「ボランティア情報」(Vol.416、421)、市民活動総合情報誌「ウォロ」、「人を大切に 人権から考えるCSRガイドブック」、JANIC シナジー(152号)、月刊 生涯学習(2月号)、三菱ガス化学グループ報「WA!」(vol.15)、比叡山時報 【ウェブ:11件】オルタナS、Yahoo!ニュース、日刊SPA!、ニコニコニュース、夕刊アメバニュース、mixiニュース、excite、Infoseek楽天、マイクロソフトネットワーク、@nifty、ライブドア など

遊ぶ、学ぶ、笑う。

そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。



www.acejapan.org

ACE

—あたりまえを世界の子どもに—

特定非営利活動法人 ACE (エース)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F
TEL: 03-3835-7555 / FAX: 03-3835-7601 (受付時間: 平日 10:00 ~ 18:00)
info@acejapan.org www.acejapan.org

ACE(エース)は、世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。

ACEは認定NPO法人です。ACEへのご寄付は税額控除や寄付金控除の対象になります。

発行: 2013年5月15日 / 発行人: 特定非営利活動法人ACE / デザイン: 林コイチ / 印刷: 株式会社グラフィック
※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



Accountability
Self-Check 2008

これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マークです。
JANICのアカウンタビリティ基準4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について当団体が適切に自己審査したことを示しています。